〖無断複製を禁ず〗⑦

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第73回　ビジネス文書実務検定試験　(6.11.24)

第１級

速 度 部 門　問 題

（制限時間10分）

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔 書 式 設 定 〕

a．１行の文字数を３０字に設定すること。
b．フォントの種類は明朝体とすること。
c．プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔 注 意 事 項 〕

1．ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2．問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。ただし、網掛けした漢字は同じ読みで間違って使われているため、正しい漢字に訂正すること。なお、網掛けする必要はない。
3．長音は必ず長音記号を用いること。
4．入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5．問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6．時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

受 験 番 号

第73回　ビジネス文書実務検定試験　(6. 11. 24)

第１級　速度部門問題　（制限時間10分）

近年、バケツ稲を体験学習として実施する学校が増えている。これは、農業協同組合（ＪＡ）が平成元年に始めた事業で、バケツを使用して稲を栽培するものだ。その特徴は、屋上やベランダなどの限られたスペースでも手軽に始められ、学校や家庭で実践しやすいことだ。そのため、自然に触れる機会が少ない都市部においては、貴重な農業体験のプログラムとして導入されている。

教育機関でバケツ稲に取り組む理由は、土づくりから収穫するまでの一連の農業体験をしながら、植物の成長が観察できるからだ。育てた稲を脱穀まで行って食べることで充実感を得られ、生産者に対する感謝の気持ちも養える。水の管理が徹底できないと稲が枯れてしまったり、スズメや病外注などの被害に遭って収穫量が減少したりする。しかし、上手に栽培すれば、バケツ３個で茶碗に一杯ほどのご飯になるという。

ＪＡでは、無償で栽培セットを配布しており、提供数は現在までに１１６４万セットを超えている。また、ホームページに栽培日記や役立つ資料などを掲載することで、バケツ稲にチャレンジする多くの人を支援している。さらに、初めて導入する学校から出前授業の依頼があれば、ＪＡの職印や地域の農業者が出向き、土づくりから収穫までの工程ごとに助言と指導をしてくれる。

ある学校では、土づくりと肥料の与え方を班ごとに変える方法を試みた。その結果、子どもたちは収穫量や品質に差が出ることを知り、試行錯誤を繰り返しながら工夫する大切さを理解したという。バケツ稲を通して得た学びは、自然の循環や作物の生産家庭だけではなく、問題解決能力の育成にもつながる。今後、農業に興味を持つ子どもが増えていくことを期待したい。